

# 青木村消防団広報

## KODAMA

発行／青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111  
発行責任者／沓掛啓二 編集／青木村消防団本部班

No. 30

発行：令和2年12月1日

### 青木村消防団によせて

青木村消防団長 沓掛 啓二



村民の皆様方におかれましては、日頃より消防団活動に対し深いご理解とご協力を賜り有難うございます。

青木村消防団は、四月一日より新体制になり様々な行事や訓練、広報活動等を行いながら村民の安心安全を守るべく個々の経験値を伸ばしていくことなくはならない中、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、県の基準を踏まえ多くの事を中止、又は延期の判断をしてきました。上半期には、火災による緊急出動が一件、火災扱いが一件有りました。我々消防団は如何なる場合でも有事の際は、出動しなければなりません。そんな中、団員、協力員、機能別消防団企業の皆様には、新型コロナウイルス感染症のリスクのある中の活動に対し深く感謝

申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症を懸念される中、有事の際の出動に送り出して頂いている御家族の皆様にも重ねて御礼申し上げます。

近年、消防団を取り巻く環境は日々変化しており、とても難しい状況にあります。青木村消防団では、団員減少に伴い青木村消防団の団員確保など、様々な問題について、機構改革会議を開き問題提起し検討しております。伝統ある青木村消防団を守るために、村民の皆様、消防関係者の方々のお力添えをお願いいたく存じます。

今後の消防団の活動について、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を行いながら行事、訓練等を行い、郷土愛護の精神のもと、安心して暮らせ、安全に過ごせる青木村を目指すべく団員一人一人が団結し活動してまいります。村民の皆様温かい御支援、ご協力の程、宜しくお願いいたします。

### 今年度の消防団活動について

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、消防団活動も例年のように実施できず、ポンプ操法大会及びラップ吹奏大会も中止になってしまいました。

厳しい状況下で消防団員ができることを模索し、三密とならないように工夫して頑張っています。緊急事態宣言解除後は巡視や訓練を徐々に開始しています。その中で、上半期に行われた活動の一部を紹介します。

六月七日、夫神山麓の林道調査を実施しました。新型コロナウイルス対策をしっかりとって行いました。

沓掛釜房区より林道に入り、夫神岳の中腹を縦走し細谷区に至るルートを調査しました。途中、法面の崩落等で林道が寸断されている箇所や、車両進入の可否、新たなルートが整備されている箇所の確認などができました。林道そのものの調査のみならず、無線の通信範囲の試験や水利の確認なども行い、実りある一日となりました。



六月二十八日、消防団本部役員を中心に水防訓練（土のう作成）を実施しました。

梅雨時の長雨や台風に備えて土のうをあらかじめ作成して備蓄しておきます。

昨年の台風19号災害の際も、たくさん土のうを使用しました。

土のう作成は力仕事ではありませんが、ベテラン団員からコツを教わりながら作成していきます。こうしたひとつの事をみんなで協力して行う訓練を通じて、世代や地区の異なる団員同志に絆が生まれていきます。



ているところです。全国どこへ行っても土地柄があります。やはり、青木村の良さを皆さん自身が一番気付かなければいけません。これは消防団の原点なんです。また、団員の質にもつながります。

十月十一日(日) 青木村文化会館二階講堂にて、日本消防協会名誉会員の五十嵐幸男様を講師にお招きし講話講習会を開催いたしました。コロナ禍で、参加者は本部役員・正副分団長・部長・女性班員と人員を絞った。開催とさせていただきます。

講話では、いろいろな内容の話聞かせていただきましたが、その中の一部をご紹介します。

【個性を大切に】

全国は非常に広いですが、九州は封建的で男性の強いところです。北海道はまた逆で、新興住宅街で新しい皆さんが集まったところで、和気あいあいとし

きちんと確立された練習方法によって訓練を積み重ねてきたからです。

「ありがとう」の感謝のことは団員の士気がかわる」

入団した当時、早朝のポンプの操法訓練に参加しても、先輩に新人ということで邪険に扱われ、ポンプ操法訓練が嫌になっ



一方、公園のお堀周辺で出初式のラッパ訓練に参加した時は、当時の副分団長に「忙しいところありがたいな」と感謝の言葉をかけられ、消防団でも必要とされることを感じ、消防団活動をする原点となりました。

上に立つ者は、団員一人ひとりの気持ちをよく理解して接することが重要です。ちよつとしたきっかけで団員の気持ちを変えられることができます。

【訓練の重要性】

消防団は特別職の公務員であり、単なるボランティアではありません。消防団である以上、最低限度の技術を身につけてはなりません。

ポンプ操法は単なる競技ではありません。ポンプ操法訓練には安全管理・技術的な要因が全部凝縮されています。大会に勝つためのだけの訓練ではなく、最低限度の技術を学ぶために必要でありますし、大会では自分たちの技術レベルがどこにあるのかを把握するために必要であります。

大災害の時には、無線機では一対一での通信しかできず役に立ちませんでした。一斉に情報を伝達するためには、ラッパまたは拡声器の使用が効果的でした。ラッパを必要ないという人もいますが、決してそんなことはありません。

【幹部の心得】

幹部として重要で、一番大事なことは、団員を絶対にはがさせないこと。個人行動をさせないことです。水害や土砂崩れでは、災害に立ち向かわず避難誘導に徹することが重要です。

団員以上に知識・熱心さ・真面目さを持つことにより信頼され、団員はついてきます。団員には、一人も無駄な人はいません、必ず役に立ちます。来てくれた団員には感謝の気持ちを伝えることが必要ですし、聞き上手になることも大切です。

■講師紹介 五十嵐 幸男様

長野県上田市出身、昭和四十年上田市消防団に入団され、上田市消防団団長を四期八年務め

られております。また、長野県消防協会会長も務められ、日本消防協会では数々の役職に就かれ、総務省消防庁では委員・消防団等充実強化アドバイザーとしての消防団のために活躍されております。今年度は、長野県消防協会評議員としても、長野県の消防団のために務めて頂いております。



## 青木村の女性班活動について

女性班長 西川 明江



全国では、二万六千名以上も女性の消防団員が各都道府県で活動しています。男性の団員数が減少していく中で、女性の団員数は年々増加しています。

青木村消防団においても、「初期消火だけでなく救護人のケアなどの後方支援が必要になった場合に女性の温かさで被害を受けた人の支援をしてもらいたい」との考えから、平成二十六年十月より女性消防団員の募集と同時に女性班が発足しました。最初は三名で始まった活動も徐々に仲間も増え、楽しく活動をしています。女性班が誕生

してから三年目までは本部付として活動を行い、四年目以降は、分団統合により女性団員も本部班付と分団付に分かれてそれぞれの活動を行なっています。

ここで、本部班付女性団員と分団付女性団員の活動について紹介します。本部班付女性団員は青木村役場の職員で構成されています。主な活動は大会のアナウンスや式典での支援活動などです。表立った活動は少ないですが、一団員として出来る範囲内での活動を行なっています。

一方、分団付女性団員は村内外の企業や自営業で働いています。主な活動は、災害発生時の出動・広報活動・訓練等といっ



た団全体の活動とは別に、女性班会議や普通救命講習、炊き出し訓練などを行なっています。団員の中には、ラッパ隊の一員として活動している団員もいます。また、長野県女性消防団員意見発表会（現・長野県活性化大会）に参加し意見発表を行いました。そこで他団の女性団員との交流を行なっています。視察として、全国女性消防団員活性化大会や全国女性消防操法大会に見に行く事もあります。また、救命講習を行う上で必要な資格として「応急手当普及員」の講習も行なっています。

現在、女性団員が誕生してから今年の十月で七年が経ちます。まだまだ、女性団員の存在

を知られていなのが現状です。励ましの言葉を頂く反面、心無い言葉を頂くことも時にはありますが、男性団員に混じりながら訓練や大会に参加することで、女性団員が活躍している姿を見てもらい、少しでも興味・関心を持って頂けたらいいなと思っています。現在行っている活動以外にも、女性の持つソフトな面を活かせる活動があります。皆さんの持つ知識や経験を消防団で発揮してみませんか？



# 青木村消防団へようこそ！

令和2年度青木村消防団新入団員より  
ひと言ずつ頂きました。

## ■第一分団

新井

麗さん (26歳)



今年度から、第一分団当郷部に入団した新井麗です。上田市から引越したのを機に入団させて頂くことになりました。青木村の生活にも慣れてきたところです。

職場が村から近くにあるので方が一の有事の際にはいち早く駆け付け、少しでも地域の皆様のお役に立てる様務めていきたいと思ひます。

まだまだ分からないことも沢山ありますができる限り多くの活動・行事に参加し、地域の一員、そして消防団員の一人として青木村の皆様に少しでも貢献できるように努めていききたいと思いますのでご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

## ■第一分団

桜田

翔平さん (29歳)



今年度から第一分団殿戸部に入団しました桜田翔平です。中学校の時によくお世話になった先輩達が、消防団で頑張っ

ている姿をよく見かけ、入団したいと思ひました。今年、コロナの影響もあり、活動は、ほとんど出来ていませんが、諸先輩方の助言を頂きながら活動を通じて、いろんな事を学び地域に貢献できるように努めていく所存です。よろしくお願ひします。

## ■第一分団

塚田

大剛さん (34歳)



今年度から第一分団村松部に入団しました塚田大剛です。昨年、村松区に移住したことを機に入団させて頂きました。まだ、不慣れで至らない点も多く、諸先輩方にはご迷惑をおかけしておりますが、懸命に消防活動を全うすることに努めていきたいと思ひます。生れ育った青木村のため、地域の皆様の安全・安心をお守りするため、日々鍛錬を積んでいこうと思ひます。これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。

## ■第一分団

柳井

元気さん (35歳)

この度は、青木村消防団の殿戸部に入団させて頂いたご自身の引き締まる思いであります。今年、コロナウイルスの渦中

## ■第二分団

橋詰

渡さん (29歳)



今年度から第二分団南田沢部に入団しました、橋詰渡です。今年から青木村に移住した事を機に、入団させて頂いたことになりました。出身は、青木村ではありませんが、縁あつて青木村でお世話になるようになりました。まだコロナウイルスの影響などで、活動には参加できていませんが、少しでも先輩方、地域に方の力になれるよう、積極的に活動に参加させて頂いたごき、貢献できればと思つています。

その中で私自身の成長にも繋がれば実に喜ばしいことに他なりません。

短い挨拶では、ございますが何卒よろしくお願ひ致します。

## ■第一分団

斉藤

秀和さん (37歳)



今年度から第一分団当郷部に入団しました、斉藤秀和です。青木村へ引越して来て二年目になります。昨年、台風19号の影響により、自宅の庭が浸水してしまいました。

そんな時に、いち早く駆けつけ土嚢を積み上げ対処してくださったのが、消防団の皆さんでした。その時の御恩を忘れず、今度は私も地域の役に立てるよう貢献していきたく思ひます。よろしくお願ひします。

## ■第二分団

佐藤

義人さん (34歳)



今年度より第二分団入田沢部に入団しました佐藤義人(よしひと)です。昨年青木村に家を建て、上田より引越してきた事をきっかけにお声かけをいただき、入団する事となりました。

私自身まだ引越してきて日も浅いので、消防団の活動を通して地域を学び、皆様との交流を深めながらお役に立てればと思つております。


今は世の中の事情もあり活動が制限されている中ではありますが、少しずつ知識をつけ、微力ながら皆様のお力になれるよう努めてまいります。

よろしくお願ひ致します。

あなたも消防団に参加しませんか？

地域の安心・安全のため  
共に頑張りましょう！

お問い合わせは青木村役場総務企画課  
(NTT・情報電話共通 49 - 0111)まで。



※年齢は令和2年12月1日現在